

科学哲学研究室

Philosophy of Science and Information



私たちの目標 our goals

科学・技術・情報についての哲学的考察に基づき、科学・技術と社会の望ましい関係のヴィジョンを描く。
社会のアクチュアルな問題に「応用」することによって、哲学の力を現代によみがえらせる。
哲学を、他分野の研究者・技術者・市民との共同作業によって展開する。

おもな研究テーマ research subjects

1 科学・技術哲学の根本問題

(1) 科学的实在論の問題

科学の目的は真理に達することなのか、別の何かなのか。真理に達することだとしてそれはどの程度達成可能か。達成可能だとしたらそれはなぜか。



(2) 科学・技術におけるモデルの意義

長らく科学哲学では、科学は文章の集まり（公理系）として表象されてきた。しかしそれでは現実の科学の営みを捉えることはできない。モデルの集積として科学を捉え、従来の科学哲学の問題系を再構成する。

2 個別科学における応用問題

(1) 心理測定の哲学

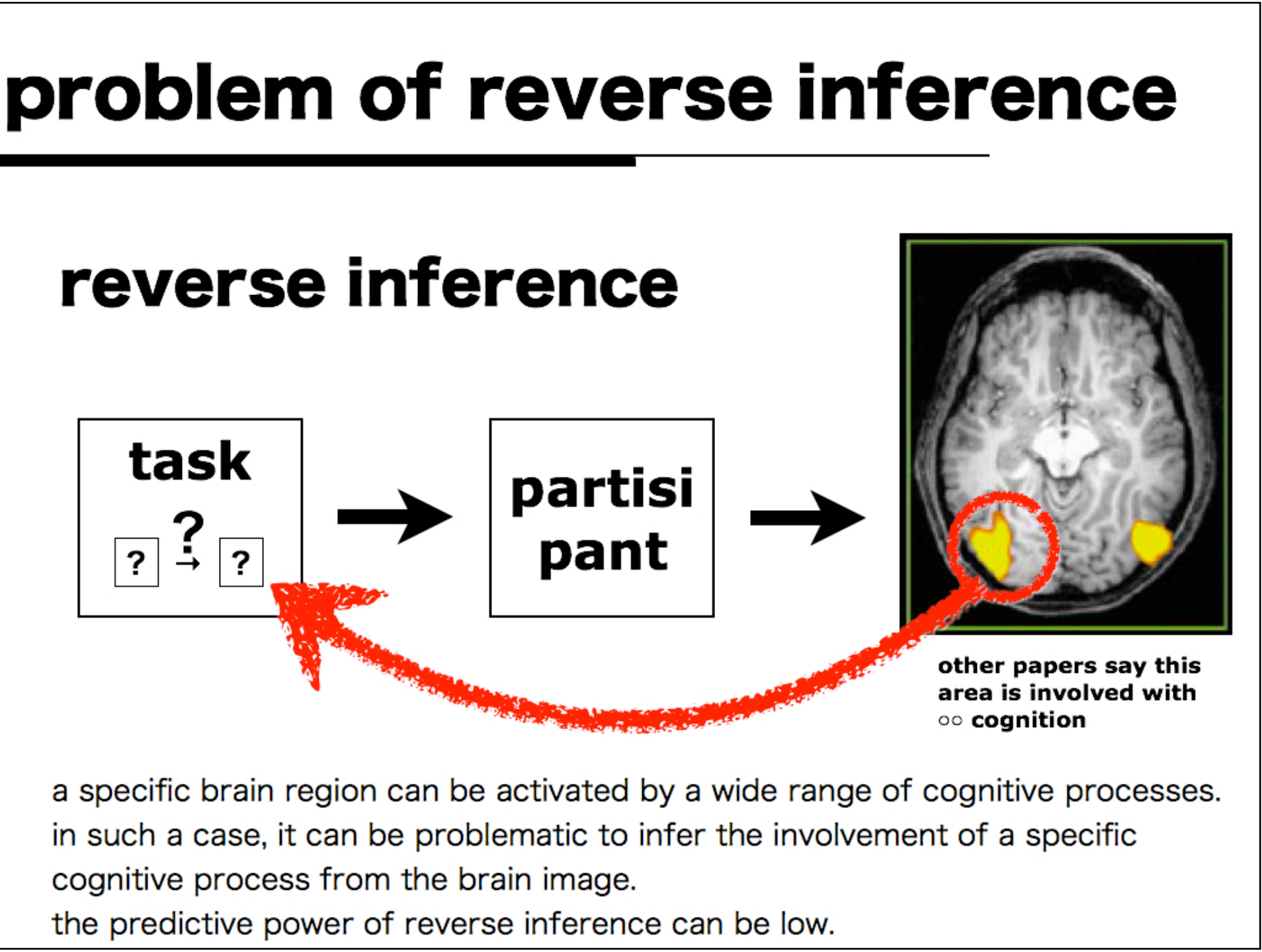
心理学、情報科学では、きわめてとらえどころのないわれわれの心の傾向性を何とか数値化して捉えようとしてきた。心理測定を貫く方法論的原理は何か。心理測定を改善するにはどうすればよいか。

(2) 巨大実験科学の哲学

長らく科学哲学では、19世紀までの個人で営まれる科学研究を念頭に置いてきた。しかしそれでは現実の科学の営みを捉えることはできない。分業と組織運営が大きな比重を占める巨大実験科学に切り込むことで、従来の科学哲学の問題系を再構成する。



(3) 脳画像の認識論・数学の適用可能性・社会心理学方法論・発生学と進化学の統合戦略・地球惑星科学における歴史的説明



3 情報の哲学の構築

(1) 情報科学とはいかなる科学か

情報科学はあるのだろうか。あるとしたらその基本原理は何か。情報科学的な世界観にはどういう特徴があるか。情報科学特有の方法論とは何か。

(2) 情報の流れとしての世界観

世界を情報の流れとして捉え、その上に、意味、志向性、目的、機能、心などといった諸概念を重ね描く。

4 技術の哲学と技術者の倫理

(1) 技術の認識論

「技術知」なるものの特質は何か。それは科学知とはどのように異なるのか。技術知の質を高めるにはどうしたらよいのか。こうした問題に、認識論的にアプローチする。

(2) 情報倫理学の基礎

知的所有権とは何か。なぜ、そしてどの程度それは守られるべきなのか。プライバシーはなぜ大切なのか。こうした問いに、現状追認的ではなく、根本に立ち戻って答える。

(3) 技術者の倫理

技術者は専門職として、顧客や雇い主だけでなく市民一般に対して社会的責任を負う。この余分な責任の根拠は何か。そうした責任を技術者がきちんと果たしていけるような教育や社会的支援のシステムはいかにあるべきか。



5 科学・技術のシヴィリアンコントロールを目指す研究と実践

(1) 科学コミュニケーションと市民の科学リテラシー

科学・技術のシヴィリアンコントロールを可能にする制度を設計する。そのために、科学コミュニケーションはどうあらねばならないか、そこで涵養されるべき市民の科学リテラシーの内実は何か。

(2) 科学性と民主的正統性を両立させた社会的意志決定のしくみ

科学・技術がかかわる社会的意志決定をパターンリズムにもポピュリズムにも陥らずにいかに進めるか。そのための制度設計はいかにあるべきか。こうした問題に、リスクの科学哲学の知見を援用しつつ答える。

